

緩和ケア演習

単位数：2単位

時間数：60時間

開講時期及び学期(1年次後期)

○若崎淳子	臨床看護学講座 教授
秋鹿都子	臨床看護学講座 准教授
大野 智	島根大学医学部附属病院臨床研究センター センター長 教授
掛田崇寛	関西福祉大学看護学部 教授
角甲 純	兵庫県立大学看護学部実践基礎看護治療看護学 准教授 がん看護 専門看護師
廣瀬寛子	戸田中央総合病院 カウンセリング室 室長
林ふり子	横浜市立大学医学部看護学科 助教 がん看護専門看護師
坂井淳恵	岡山ろうさい病院がん相談支援センター がん看護専門看護師
今岡恵美	島根大学医学部附属病院看護部 看護師長 緩和ケア認定看護師

1. 科目の教育方針

がん患者が抱える様々な症状、苦痛・苦悩を理解し、適切な臨床判断に基づいた症状マネジメントについて学ぶ。並びにがんの進行やがん治療に伴い生じる患者の全人的苦痛を理解し、苦痛緩和に向けて、包括的な介入ができるための看護援助の方法を探求する。そして、キュアとケアを統合し、がん患者とその家族の QOL向上を目指した高度ながん看護実践能力の開発に向けて、研究成果の活用やエビデンスに基づく臨床判断、的確なアセスメント、援助の方法、看護実践の評価について理解する。緩和ケアに関するフィールドワークや事例検討、実技演習を通じて、患者とその家族への適切な援助方法を検討すると共にがん看護専門看護師の果たす役割を考察し、緩和ケア領域における専門的な看護援助ができるための能力開発を探求する。

2. 教育目標

- 1) 緩和ケアの概念や歴史、エビデンスに基づく緩和ケアの実践について理解する。
- 2) 緩和ケアに用いられる薬剤の機序と主作用・副作用・相互作用を学び、薬剤の適切で安全な使用方法を理解する。
- 3) セルフケア理論に基づく症状マネジメントの看護学的アプローチを習得する。
- 4) 緩和ケアにおけるがん看護専門看護師としての臨床判断過程、患者とその家族のニーズに沿った専門的な援助方法の検討、看護実践の評価について理解する。
- 5) がん患者の身体的な苦痛症状に関するアセスメント及び症状マネジメント、援助の方法を理解する。
- 6) がん患者の精神的な苦痛症状に関するアセスメント及び症状マネジメント、援助の方法を理解する。
- 7) がん患者の実存的苦痛を理解し、適切で専門的な看護援助の方法を検討する。
- 8) がんがもたらす苦痛や苦悩、がんの進行やがん治療に伴い生じる患者の苦痛を全人的に理解し、苦痛緩和に向けた包括的な介入ができるための臨床判断過程とエビデンスに基づく専門的な看護援助の方法を検討し提案する。
- 9) がん患者が抱える心身の苦痛緩和に向けて、緩和ケアにおけるがん補完代替医療についてその内容とエビデンス、支援方法を理解する。
- 10) 緩和ケアにおける地域連携や在宅緩和ケアの実際と課題、並びにがん看護専門看護師の果たす

役割を理解する。

- 11) 緩和ケアにおける鎮静に関する既習の知識を基盤として、事例をもとに倫理的問題や意思決定支援について思考を深める。
- 12) がん相談支援の事例から患者家族が抱える苦悩を理解し、緩和ケアにおける家族への相談支援のあり方を検討する。
- 13) 緩和ケアにおける患者とその家族への看護カウンセリング技術を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッション、事例検討や実技演習、医療施設での医療・看護活動に参加する。

2) 授業への臨み方

- ・受講生は文献(研究論文を含む)を基に課題レポートを作成し授業に臨むこと。
- ・自らの特定看護領域を中心に学習を深め、目的意識や問題意識をもって授業に臨むこと。
- ・がん患者やがん医療、がん看護、緩和ケアに関する最新情報について、文献等から主体的に学習すること。

3) 評価

[レポート] 50% (課題レポートの内容：臨床上の看護課題について、根拠に基づく系統的記述及び論理的考察を重視する。エビデンスに基づく臨床判断過程の記述を重視する。)

[プレゼンテーション・ディスカッション内容・実技演習]

50%

4. 使用テキスト、参考文献等

1) テキスト

授業中に適宜紹介する。

2) 参考文献

日本緩和医療学会編、専門家を目指す人のための緩和医療学、南江堂、最新版

恒藤 暁、緩和ケアエッセンシャルドラッグ、最新版

廣瀬寛子、看護カウンセリング第2版、医学書院、2003.

森田達也、緩和ケアレジデントマニュアル、医学書院、最新版

緩和医療に関する各ガイドライン(最新版)

森田達也、緩和ケアレジデントマニュアル、医学書院、最新版

その他、適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	緩和ケアと症状マネジメント	角甲 純
2	薬物による症状緩和：事例を用いた症状アセスメントと使用薬剤の判断(演習)	角甲 純
3	がん患者のセルフケアと症状マネジメント(1) 看護実践における症状マネジメントモデルの活用 症状マネジメントの統合的アプローチ：事例検討	角甲 純
4	がん患者のセルフケアと症状マネジメント(2) 症状マネジメントの統合的アプローチ：事例検討	角甲 純
5	緩和ケアの実際(1) エビデンスに基づく専門的ながん看護実践に向けた臨床判断の過程	林 凜り子

6	緩和ケアの実際(2) エビデンスに基づく専門的ながん看護実践に向けた援助方法の検討と看護実践の評価：事例検討	林 凧り子
7	がん患者の疼痛の発生機序と看護	掛田崇寛
8	苦痛症状のアセスメントと援助(1)がん性疼痛	掛田崇寛
9	苦痛症状のアセスメントと援助(2)倦怠感	掛田崇寛
10	苦痛症状のアセスメントと援助(3)呼吸困難	角甲 純
11	苦痛症状のアセスメントと援助(4)栄養障害、食欲不振	掛田崇寛
12	苦痛症状のアセスメントと援助(5)排泄障害	掛田崇寛
13	苦痛症状のアセスメントと援助(6)不眠、せん妄	林 凧り子
14	苦痛症状のアセスメントと援助(7)抑うつ、不安	林 凧り子
15	苦痛症状のアセスメントと援助(8)否認、怒り	若崎淳子
16	がん患者の実存的苦痛：スピリチュアルペインの理解と看護：事例検討	林 凧り子
17	がんがもたらす患者の苦痛症状及び苦悩の全人的理解：臨地での事例検討	若崎淳子 今岡恵美
18	がんがもたらす患者の苦痛症状及び苦悩に対する臨床判断とエビデンスに基づく支援の検討及び提案：臨地での事例検討(含：プレゼンテーション)	若崎淳子 今岡恵美
19	がん疼痛～オピオイドローテーションの実際：臨地での事例検討(フィールドワーク)	若崎淳子 今岡恵美
20	がん患者が抱える心身の苦痛緩和に向けたがん補完代替医療の活用：事例検討	大野 智
21	緩和ケアチームにおける活動の実際とがん看護専門看護師の果たす役割の理解：臨地での活動参加(フィールドワーク)	若崎淳子 今岡恵美
22	緩和ケアにおける地域連携とがん看護専門看護師の果たす役割の理解(1)緩和ケア地域連携カンファレンスへの参加(フィールドワーク)	若崎淳子 今岡恵美
23	緩和ケアにおける地域連携とがん看護専門看護師の果たす役割の理解(2)退院前カンファレンスへの参加と退院後訪問(フィールドワーク)	若崎淳子 今岡恵美
24	地域で暮らす終末期がん患者とその家族への緩和ケアの実際：事例検討	秋鹿都子
25	緩和ケアにおけるがん相談支援(1) 相談支援センターで行なう家族ケアの実際：事例検討	坂井淳恵 秋鹿都子
26	緩和ケアにおけるがん相談支援(2) 病院から在宅療養への移行-自宅での療養と看取りに関する家族からの相談への対応-：事例検討	坂井淳恵 秋鹿都子
27	がん看護実践における倫理調整 緩和ケアにおける鎮静に関する倫理的問題と意思決定支援：事例検討	若崎淳子 坂井淳恵
28	看護カウンセリングの実際：実技演習その1	廣瀬寛子
29	看護カウンセリングの実際：実技演習その2	廣瀬寛子
30	看護カウンセリングの実際：実技演習その3	廣瀬寛子

嘱託講師は集中講義とする。